

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(英語)／眞野  
美穂

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

上記の目標の実現のため、以下のような取り組みを行いたい。

- ①授業内容: 英語科教員だけでなく、現在は小学校教員にも外国語活動を行う英語力が緊急に求められている。どちらも場合にも、しっかりと間違いのない英語の知識を持っていることが必要であるため、英語学の専門として、授業内容の中で誤用が生じやすい英文法や英語の発音などについて英語の特徴をしっかりとつかみ英語力の伸長をつかめるような内容を取り入れたい。
- ②授業方法: 授業内容では英語の知識を重視したが、教員の資質能力を高めるためには専門的な知識のみでは不十分である。そのため、授業方法として、問題発見解決課題、グループディスカッションなど、実践的な活動を取り入れることで考え力とそれを発信できる力を備えた教員を育てたい。
- ③成績評価: 上記で目標とした資質能力の向上を評価するため、評価は多角的な観点から行う。例えば、「英語音声学」では、筆記テストや課題だけではなく、口頭テストも行い、実際の発音の習得を評価したい。他の科目においても同様に、複数の手段での評価を目指す。

#### 2. 点検・評価

上記の目標を以下のように達成できたと考える。

- ①授業では、受講生が授業内容以外に、英文法や英語の発音など英語の特徴を理解し、英語力を伸長することができるよう、テキストや参考資料は英語で書かれたものをできるだけ選択し、さらに、一般教養科目の英語リーディングなどにおいても、積極的にそのような内容を取り上げた。また、ゼミにおいても、英語力を伸ばすために、英語学習も取り入れている。
  - ②授業方法としては、単に一方的に情報を提示するだけではなく、自分の言語直観を内省するような、そして英語との違いについて考えさせるような問題発見解決課題を出し、自ら考え、ディスカッションする活動をそれぞれの授業に取り入れた。
  - ③成績評価についても、単にテストの成績だけではなく、レポートによる調査能力や、音声学などでは口頭テストなどを行うことで、多面的な評価を実践した。
- これらの授業実践により、学生の英語力の伸長、課題発見など応用力の伸長に貢献できたと考えている。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

学生の教育・学生生活支援として、以下の内容を実行したい。

- ①コース内、授業内外での学生とのコミュニケーションを積極的に行い、問題点や悩みなどの早期発見とその解決を目指す。
- ②3年生担任として、学習・生活状況の把握、または就職支援を行う。特に今年度は実習や進路選択の支援に力を入れたい。
- ③オフィス・アワーを設け、相談にのる。
- ④ゼミにおいて、積極的に採用試験対策、特に英語力の育成を行う。
- ⑤外国人留学生プログラムコーディネーターとして、留学の支援を行う。

#### 2. 点検・評価

年度目標を以下のように実行し、学生の教育・学生生活支援を行った。

- ①学生とのコミュニケーションを積極的にとることで、学生の持つ悩みに気づくことができ、その解決法などを一緒に考え、問題解決に結びつけることができた。
- ②3年生担任として、学生の学習・生活の相談にのった。また実習時には、附属校を訪問し、どのような実習を行っているかを把握し、支援を行った。
- ③オフィス・アワーを設け、学生の学習支援を行った。
- ④ゼミでは、積極的に英語力の育成、採用試験への支援を行い、今年度卒業・修了のゼミ生は全員採用を決めることができた。
- ⑤外国人留学生プログラムコーディネーターとして、留学生の支援、または留学希望者の支援を行った。また、3月には協定校であるウェスタン・カロライナ大学を訪問し、現在の状況と今後の交流活動について意見交換を行った。

### Ⅱ－2. 研究

#### 1. 目標・計画

研究面での今年度の目標・計画は以下のとおりである。

- ①現在取り組んでいる研究テーマ(数量表現)について、成果を発表する(1本は国際学会で発表採択済み。もう一本を投稿準備中。)
- ②今年度から新しく大学共同利用機関法人国立国語研究所の移動表現についてのプロジェクト(移動類型論プロジェクト)に参加し、学習者の言語表現の実験研究を行う。
- ③本学の一般英語カリキュラム改善への研究を昨年度に引き続き行う。
- ④新規の研究課題である「外来語における形態素脱落現象」について学会発表と論文投稿を目指す。

#### 2. 点検・評価

研究面では、今年度、計画以上の成果を収めることができた。

- ①②④1年間で学会発表を4本おこなった(国際学会2、全国大会2)。その内訳は以下のとおりである。
  - ・国立国語研究所の移動表現についてのプロジェクト(移動類型論プロジェクト)に参加し、学習者の言語表現の実験研究を行い、その成果を発表した。
  - ・昨年度から取り組んでいる研究テーマ(数量表現)について、国際学会で発表を行い、1本は学術誌に掲載された。
  - ・「外来語における形態素脱落現象」について、全国大会で発表することができた。
  - ・参加している研究会のメンバーと共に、全国大会でのパネルセッションを企画し、同格についての研究を発表した。
- ③一般英語カリキュラム改善のために、昨年度に引き続き、データの収集を行った。来年度以降のデータも合わせ、分析する予定である。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

大学運営に関する目標・計画は以下のとおりである。

- ①就職委員会委員として、学生の就職支援を積極的に行い、貢献したい。
- ②国際交流委員会委員として、留学生や留学希望の学生を支援したい。
- ③学生の英語力についての調査を行うことで、今後の一般英語カリキュラムの改善を目指し、大学運営に貢献したい。

### 2. 点検・評価

目標・計画のとおり、以下の活動を行うことができた。

- ①就職支援委員会委員として、コース内の学生の就職支援を積極的に行った。
- ②国際交流委員として、留学を目指す学生の支援、留学生の英語関連科目の履修相談を行った。また、3月には協定校であるウェスタン・カロライナ大学を訪問した。
- ③新入生、そして二次の英語力の調査を昨年に引き続き、行った。来年度以降のデータと比較し、現状のさらなる把握を目指す予定である。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

以下の目標を持ち、活動を行いたい。

- ①附属学校での研究会、実習に積極的に参加し、教育・研究面での連携を深めたい。
- ②大学共同利用機関法人国立国語研究所のプロジェクト(移動類型論プロジェクト)に参加し、研究成果を社会に還元したい。このプロジェクトを通し、英語学習者の移動表現の傾向を実験によって明らかにすることで、英語教育にも貢献できると考える。
- ③公開講座、免許更新講習、アドバイザー事業に積極的に携わり(すべてを予定)、地域への教育研究活動の還元を目指したい。
- ④国際交流委員として、積極的に留学生支援や国際交流活動を行いたい。

### 2. 点検・評価

以下のような活動を行った。

- ①附属学校での実習に積極的に参加し、学生の支援を行った。
- ②大学共同利用機関法人国立国語研究所のプロジェクト(移動類型論プロジェクト)の一環として、英語学習者、日本語学習者、さらにハンガリー語学習者とそれぞれの言語母語話者と比較することで、学習者言語の傾向を分析し、その成果を発表した。これらは英語教育などの言語教育分野への一つの貢献になると考えられる。
- ③免許更新講習、アドバイザー事業(洲本高校での学問研究ワークショップを担当)、出張授業(県立川島中学校)を行い、地域への教育研究活動の還元を目指した。
- ④国際交流委員として、留学生支援、学生の留学相談などを行い、国際交流の支援を行っている。また、協定校のウェスタン・カロライナ大学からの学生・教員の訪問の際には、コーディネート業務を行った。また、3月には実際にウェスタン・カロライナ大学を訪問し、今後の交流活動について意見交換を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)